

## 情勢報告（令和元年 8 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### ユリのオリジナル品種生産拡大に向けて ～農業大学校との連携～



オリジナル品種'ノーブル'

7月18日、本山町でオリジナル品種'ノーブル'について、農業大学校での研究課題として取り組むよう、教育課担当者と育成農家が打合せをしました。

農業大学校からは、地区出身の学生が、就農時の栽培品目の一つとして検討中で、CO<sub>2</sub>施用による切り花品質や切り下球の肥大等の計画について説明がありました。普及所からは球根養成や切り花生産の状況や課題を報告し、改善点などを説明しました。

育成農家からは、「需要は高いが生産が伸び悩んでおり、なんとか生産拡大につながれば」と農業大学校との連携に前向きでした。

今後も、関係機関が情報共有しながら課題解決に向けて連携していきます。

### 農福連携で雇用の機会を増やそう ～(株)れいほく未来の試行就労受入～



選果、調整作業中の利用者等

7月18、20、25日の3日間、農福連携の一環として、(株)れいほく未来が就労継続支援事業所の利用者を試行的に受け入れる就労体験会が開催されました。

当日は2事業所から利用者5人、指導員2人が参加し、パプリカと三色ピーマンの調整・荷造り作業を体験しました。

普及所はこれまで、実施に向けて作業上の課題対応や、出来高による賃金体系など両者の連携を支援してきました。

7月末に(株)れいほく未来と事業所は雇用契約を結び、毎週2回作業を委託するようになりました。

普及所は、就労継続支援事業所の利用者が農業で働く機会を広げるとともに、農業者での労働力不足解消にむけて支援していきます。

### 大豊町の郷土料理を伝えよう ～こてこて農家レストラン～



料理作りを楽しむ参加者

7月21日、大豊地区農漁村女性グループ研究会は大豊町ふれあい総合センターで大豊町の郷土料理を味わう「こてこて農家レストラン」を開催しました。高知市等から参加した8人は、研究会員4人、県地域支援企画員1人、普及所1人の指導のもと、銀ブロウ寿司、こんちん、半夏だんご、ゼンマイ油炒め、なすとみょうがの酢味噌和えなどの郷土料理作りに挑戦しました。

参加者からは「えごまの食感が印象的」「銀ブロウはおいしかった」「みんなで作って楽しかった」などの感想が聞かれました。

普及所は、郷土料理の伝承を通して大豊地区農漁村女性グループ研究会の活動を支援していきます。

「土佐天空の郷」を3度目の日本一へ ～全戸対象の現地検討会を開催～



協力して生育調査を実施

7月22～23日、本山町特産品ブランド化推進協議会は、ブランド米「土佐天空の郷」の現地検討会を行いました。

全生産者35名の圃場を巡回し、生育状況（葉色、幼穂長、病害虫の発生程度等）を確認した後、普及所から穂肥の施用、薬剤の防除について指導しました。

生産者からは、「近年、ごま葉枯病が多発しているので、今年は穂肥をしっかり施したい」、「カメムシ類の多発が予想されるので、有効な薬剤や、防除適期はいつか」等の声が聞かれました。

9月下旬から収穫が開始されますが、普及所では水田センサーを活用し、出穂後の積算温度（日平均気温）から収穫時期を予想するなど、適期収穫に向けて支援していきます。

作業受委託で土壌病害対策しよう ～太陽熱消毒実施～



7月26日  
職員が緑肥をすき込み中

嶺北地域では、連作による青枯病や半身萎凋病などの土壌病害の発生が問題になっています。高齢化等の理由から土壌消毒ができない生産者の代わりに、（株）れいほく未来が土壌消毒を実施する体制を整備するため、青枯病が発生していたシシトウのほ場で、緑肥栽培とすき込み、耕耘、畝立て、透明フィルムの被覆による太陽熱消毒を実施しました。生産者からは「自分たちでは難しい作業をうけてもらい、助かった」という声が聞かれました。

普及所は（株）れいほく未来に対して、土壌病害対策への理解を深めてもらうよう情報提供しました。

今後、作業受委託の体制確立にむけて、料金設定や生産者へのPR方法などを検討していきます。

露地ショウガの安定出荷を目指して ～れいほくショウガ現地検討会～



現地で生育状況を  
検討する部会員

7月29日、JA高知県れいほく開発部会は、土佐町で露地ショウガの現地検討会を開催し、計6名の生産者が参加しました。

普及所からは、生育や管理状況について参加者と確認し、また、今後の台風対策や病害虫防除を紹介しました。参加者からは、アワノメイガによる芯枯れ症状が見られるようになったので、防除適期に気をつけようという発言がありました。

普及所は、安定出荷のため、JAと連携して栽培管理の徹底に向けて支援していきます。

## 米ナスの暑さ対策 ～れいほく米ナス現地検討会～



かん水管理や病虫害防除について検討する部会員

7月31日、JA高知県れいほく米ナス部会は、土佐町で現地検討会を開催し、計9名の生産者が参加しました。

普及所からは、夏期の高温対策として換気や適正かん水、病虫害対策について、また日射比例かん水制御装置を導入しているほ場では、梅雨明け以降の土壌水分量が減少していることを紹介しました。参加者は、気象と生育に合わせた適正かん水量に注意する必要があることを実感していました。

普及所は、現地検討会を通して生育に合わせた栽培管理の徹底を支援していきます。

## 栽培技術の向上を目指して ～シシトウ部会現地検討会～



整枝について検討中

8月1日、JA高知県れいほくシシトウ部会は、土佐町と大豊町で現地検討会を開催し、部会員26人が参加しました。会では、JA高知県シシトウ担当専門営農指導員から整枝剪定について指導を受け、新規栽培者を中心に、下枝の除去や主枝の摘心時期について活発に意見交換されました。

普及所からは、夏期の栽培管理と腐敗事故防止について説明し、生産者からは、「事故が起きないように、部会全体で気をつけていきたい」と発言がありました。

普及所はJAと連携し、栽培管理と腐敗事故対策を生産者に周知し、収量・品質の向上を目指します。